ダイヤコート鉗子

自家歯牙移植の際に歯牙を確実に把持する為に，従来の鉗子に比べて頭部の形状，角度，長さを工夫してあり，また嘴部内側に滑り止めのダイヤモンドを電着してありますので，歯根膜をキズつけずに抜歯出来ます。

一般的特徴

1. 歯冠の把持が良い。
2. 滑脱，誤飲の心配が無い。

大臼歯用（下）
No.27

小臼歯用
No.4

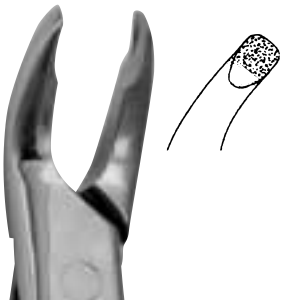
智歯用
No.222

形状的特徴

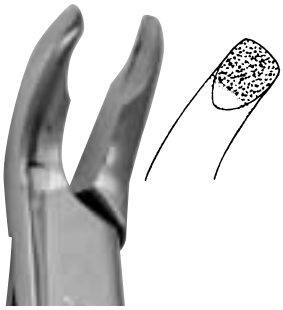
1. 環状靱帯を傷つけないようにするため，内方に向かう刃角を緩やかにした。従って萌出の浅い智歯に有効である。
2. 歯冠の大きさと形態により，出来るだけ外形に沿って接点を作るようにするために，嘴部先端が鉗子を歯冠幅に開いた時に平行になるように，閉じた状態では近心側より遠心側が狭くなるようにしてある。つまり「ハ」の字の形にしてある。
3. 嘴部先端の開きが従来の鉗子に比べて初めから大きく，最少歯冠幅より僅かに狭いだけなので，ハンドルを無駄に開脚する必要がない。手の小さな方，特に女性にも使い易い。
4. 嘴部の長さを開口量の狭い人にも有効に働くように，歯冠をつかむのに最小限の長さにしてある。

大臼歯用（上）
No.10の正面

大臼歯用（上）
No.10



小臼歯用
No.62（腕曲）



大臼・智歯用
No.8（腕曲）

新考案の下顎大臼歯用のダイヤコーティング鉗子（左）と従来型（右），ハの字の開き，関節からの長さが比較できる。

同じく小臼歯ユニバーサル型，左は新考案，右は従来型。

引用文献：補綴臨床 Vol.27 No.3 1994.5.

一般医療機器 製造販売業
許可番号 13B3X00365
(有)木村鉗子製作所